

発行:2023年11月



自然冷媒CO₂小型業務用ヒートポンプ給湯機

小型業務用エコキュート

ユーザー向け簡易ガイド

システム形名

三相200V 即湯・混合給湯機種

GE-553SUJ

三相200V 混合給湯専用機種

GE-553SU

※耐重塩害仕様は形名の末尾に「-BSG」が付きます。

*「エコキュート」は関西電力の登録商標です。

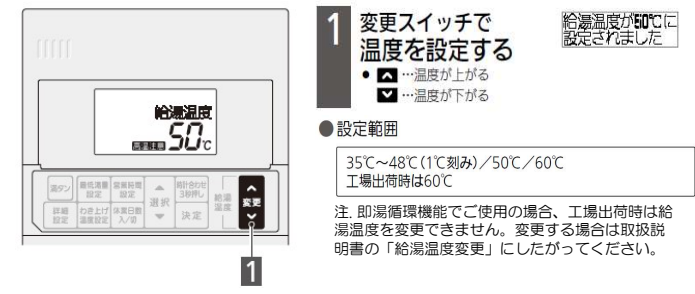
「エコキュート」の名称は、電力会社・給湯機メーカーが推奨する自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯機の愛称です。

GE-06B-KT001-553SU-営

小型業務用エコキュート ユーザー向け簡易ガイド (GE-553SUJ/SU)

1-1. 給湯温度設定 (混合給湯機能使用時)

混合給湯使用時の給湯温度 (蛇口・シャワーへ行くお湯の温度) を設定できます。



1 変更スイッチで温度を設定する

- 温度が上がる
- 温度が下がる

● 設定範囲
35℃～48℃ (1℃刻み) / 50℃ / 60℃
工場出荷時は60℃

注: 即湯循環機能でご利用の場合、工場出荷時は給湯温度を変更できません。変更する場合は取扱説明書の「給湯温度変更」にしたがってください。

お願い

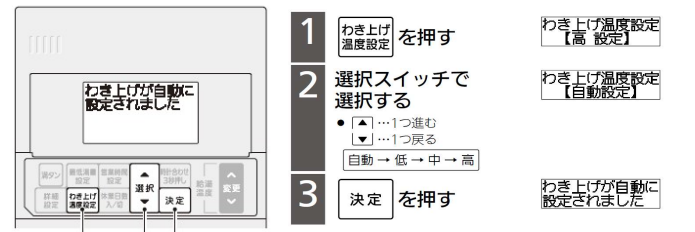
- サーモスタート付湯水混合栓において、混合給湯配管の給湯温度設定は使用のお湯の温度より10℃以上高くしてください。
- また、シャワー出湯量が少ない場合は、給湯温度設定を60℃にし、水と混ぜてご使用ください。

お知らせ

- 給湯温度を50℃以上に設定した場合、リモコンに「高温注意」が表示されます。60℃に設定した場合はリモコンから警告音が鳴ります。
- 給湯の「温度」は目安温度です。
- 実際に使うお湯は、配管の残湯により一時的に表示温度よりも高くなる場合があります。また、給湯配管の放熱や、湯水混合栓で水と混ぜることにより、表示される温度 (目安) より低くなる場合があります。

1-2. わき上げ温度

給湯機のお湯の温度を決めます。



1 わき上げ温度設定を押す

2 選択スイッチで選択する

- 温度が上がる
- 温度が下がる

自動 → 低 → 中 → 高

3 決定を押す

● 設定範囲

設定	わき上げ温度目安	わき上げ内容
高	約85℃	
中	約75℃～約80℃ (※1)	設定された営業時間中に、最低湯量の設定量を下回るとわき上げを開始します。(13ページ)
低	約65℃～約75℃ (※2)	過去の使用湯量から学習したお湯の量を自動でわき上げます。
自動	約65℃～約85℃	

お願い

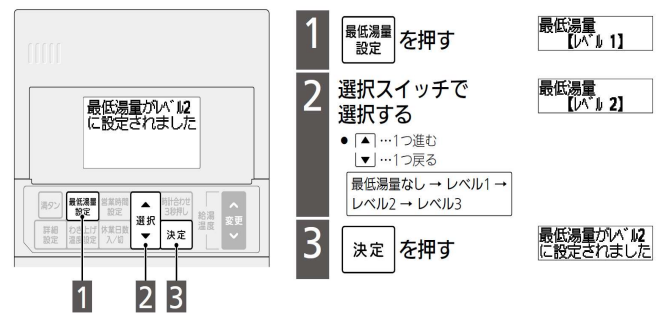
- お湯を使いすぎると、お湯がたりなくなることがあります。その場合は満タンわき増しをご利用ください。

お知らせ

- 「自動」の場合、設置後2週間は学習運転するため、わき上げが多くなります。

2-1. 最低湯量

営業時間内に常に確保しておく湯量を設定できます。わき上げ温度設定が「自動」のときは、最低湯量の設定に関係なく、過去に学習したお湯の量をわき上げます。



1 最低湯量設定を押す

2 選択スイッチで選択する

- レベル1進む
- レベル1戻る

最低湯量なし → レベル1 → レベル2 → レベル3

3 決定を押す

設定範囲
貯湯ユニット1台ごとに確保する湯量は、貯湯量調整の設定と連動します。

	貯湯量調整		
	550L	400L	300L
レベル3	400L	300L	150L
レベル2	300L	300L	150L
レベル1	150L	150L	150L
最低湯量なし	なし	なし	なし

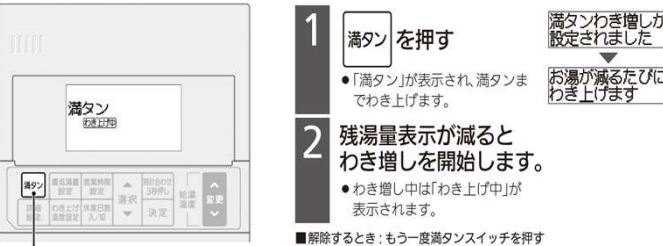
お知らせ

- 営業時間設定が24時間営業の場合、「最低湯量なし」は設定できません。
- 「最低湯量なし」に設定した場合、営業時間内はわき上げません。

工場出荷時はレベル2

2-2. 満タンわき増し

お湯がたりにならないように、減ってきたらそのつどお湯をわき上げる機能です。来客数が普段よりも大勢になる場合など、たくさんのお湯が必要ときに設定してください。



1 満タンを押す

● 「満タン」が表示され、満タンまでわき上げます。

2 残湯量表示が減るとわき増しを開始します。

● わき増し中は「わき上げ中」が表示されます。

お知らせ

- わき増し開始タイミングは、各貯湯ユニットの貯湯量調整の設定によって変わります。※わき上げ温度設定が「自動」の場合は除きます。

貯湯量調整の設定	各貯湯ユニットのわき増し開始タイミング
300L	残湯量表示3メモリ減
400L	残湯量表示2メモリ減
550L	残湯量表示1メモリ減

● 設定したその日の営業時間内は、解除されるまで何回もタンク全体をわき増しします。営業終了時間 (24時間営業設定時は深夜0:00) になると自動的に解除されます。

● 休業日数を設定すると、自動的に解除されます。

● 満タンスイッチを押すと、初回のみお湯を使わなくてもわき上げを開始します。

● 外部制御盤でわき上げ停止を設定している場合は、わき上げできません。

2-3. 貯湯量調整

わき上げ量の最大量を設定できます。わき上げ温度が「自動」のときは設定した値に関係なく、自動でわき上げます。例) 2台連結時の最大量は約1100L (550L×2台) となりますが、実使用量が650L程度の店舗では、それぞれを400Lと300Lに設定しておくことで、ムダなわき上げ量を削減できます。



1 詳細設定を押す

2 選択スイッチで「貯湯量調整」を選ぶ

● 1つ進む 1つ戻る

3 変更スイッチで設定する貯湯ユニットを選ぶ

● 接続されている貯湯ユニットの番号が選択できます。

● 1つ進む 1つ戻る

4 決定を押す

5 変更スイッチで貯湯量を決める

● 1つ進む 1つ戻る

お願い

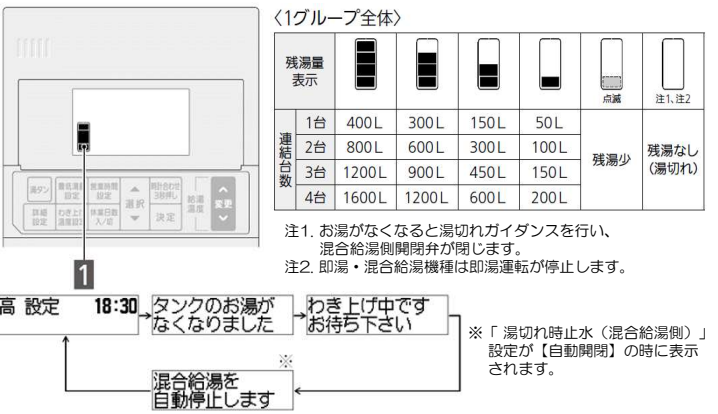
- 即湯・混合給湯機種は、【550L】でご使用ください。

お知らせ

- 貯湯量を変更した場合、最低湯量の設定によって営業時間内に確保される湯量が変わります。

2-4. 残湯量表示

連結した1グループ全体の残湯量をリモコンに表示します。お湯が少なくなったときは、満タンわき増しを使用してください。※貯湯ユニットごとの残湯量は、「タンク内温度/残湯量」で確認できます。



残湯量表示 (1グループ全体)

残湯量表示	400L	300L	150L	50L	0L
1台	400L	300L	150L	50L	0L
2台	800L	600L	300L	100L	0L
3台	1200L	900L	450L	150L	0L
4台	1600L	1200L	600L	200L	0L

注1: お湯がなくなると湯切れガイダンスを行い、混合給湯側開閉弁が閉じます。
注2: 即湯・混合給湯機種は即湯運転が停止します。

お知らせ

- 残湯量表示の「■」は45℃以上のお湯を表しています。タンク内の水の量を表示するものではありません。表示が消えてもタンク内に残っている45℃未満のお湯は使用できます。
- 自然放熱などで、タンク内のお湯の温度が下がると、お湯を使わなくても表示が減ることがあります。
- 次の場合、一度に複数個の残湯量表示が減ることがあります。
 - タンク内のお湯の温度が下がっている場合
 - お湯をたくさん使用した場合
- 残湯量表示が4つ点灯している場合、わき上げをすることがあります。

小型業務用エコキュート ユーザー向け簡易ガイド(GE-553SUJ/SU)

3-1.時計合わせ

リモコンの時計を正確に合わせてください。停電などにより時刻がずれている場合は、必ず合わせ直してください。

- 1 **時計合わせ** を3秒以上押す
●時刻が点滅します。
- 2 **選択** スイッチで時刻を合わせる
●▲…1分進む ▼…1分戻る (押し続けると連続して変更)
- 3 **決定** を押す

- お願い
- 約1分以内に各スイッチ操作をしてください。
 - 表示部に「0:00」が点滅している場合は、わき上げできません。上記手順2からの操作をして時刻を合わせてください。

- お知らせ
- 時刻は24時間表示です。昼の12時は「12:00」を、夜の12時は「0:00」を表示します。

3-2.営業時間設定

営業時間を設定すると、営業開始時間に合わせお湯を満タンまでわき上げます。営業時間外が8時間未満の場合は、24時間営業の設定をおすすめします。

- 1 **営業時間設定** を押す
- 2 **選択** スイッチで選択する
●▲…はい:24時間営業(設定完了) ▼…いいえ:営業時間設定(手順3へ)
- 3 **決定** を押す
- 4 **選択** スイッチで開始時間を設定する
●▲…30分進む ▼…30分戻る (押し続けると連続して変更)
- 5 **決定** を押す
- 6 **選択** スイッチで終了時間を設定する
●▲…30分進む ▼…30分戻る (押し続けると連続して変更)
- 7 **決定** を押す

● 設定範囲

24時間営業/営業時間設定(開始時間~終了時間)
※工場出荷時は営業時間設定(8:00~22:00)

- お知らせ
- 時計合わせで現在時刻が設定されていない場合は、設定できません。
 - 最低湯量設定が「最低湯量なし」の場合、24時間営業は設定できません。
 - 営業時間設定スイッチを押すと、1つ前の手順に戻ります。
 - 即湯運転時間は変更されません。必要に応じて変更してください。

3-3.即湯運転設定

(GE-553SUJのみ)

即湯運転の入/切や即湯運転時間※を設定します。
※ 即湯運転時間は営業時間内に設定してください。
(営業時間は変更されません。必要に応じて営業時間を変更してください。)

- 1 **詳細設定** を押す
- 2 **選択** スイッチで「即湯運転」を選ぶ
●▲…1つ進む ▼…1つ戻る
- 3 **変更** スイッチで入/切を決める
●▲…入になる:即湯運転あり ▼…切になる:即湯運転なし
- 4 **決定** を押す
●入選択時(即湯運転あり):手順5へ切選択時(即湯運転なし):設定完了
- 5 **変更** スイッチでモードを決める
●▲…はい:24時間運転 ▼…いいえ:運転時間設定
- 6 **決定** を押す
●はい選択時(24時間設定):設定完了いいえ選択時(運転時間設定):手順7へ
- 7 **変更** スイッチで開始時間を設定する
●▲…30分進む ▼…30分戻る (押し続けると連続して変更)
- 8 **決定** を押す
- 9 **変更** スイッチで終了時間を設定する
●▲…30分進む ▼…30分戻る (押し続けると連続して変更)
- 10 **決定** を押す

■通常表示(時刻表示)へ戻るとき:詳細設定スイッチを押す(スイッチを押さなくても、約1分間経過すると通常表示に戻ります。)

● 設定範囲

入:即湯運転あり/切:即湯運転なし
24時間運転/即湯運転時間設定(開始時間~終了時間)
工場出荷時は「入」設定、「即湯運転時間設定(8:00~22:00)」

お知らせ

- 即湯運転開始直後は、お湯が出るまでに時間がかかることがあります。
- 即湯運転は、即湯運転設定時間中に貯湯ユニット1の残湯量表示が1メモリ以上(初回のみ2メモリ以上)の場合に動作します。
- 即湯運転の設定時間中は、リモコンに「即湯中」と表示されます。

3-4.休業日数

翌日からお湯を使用しないときに、休業日数分だけ給湯機のわき上げを止める機能です。1ヵ月以上お湯を使用しない場合は、取扱説明書の「機器を使用しないとき」にしたがって給湯機の水を抜いてください。

- 1 **休業日数入/切** を押す
- 2 **選択** スイッチで休業日数を設定する
●▲…1日進む ▼…1日戻る (押し続けると連続して変更)
- 3 **決定** を押す

- 決めかた ※営業時間モードにより異なります。

- 例1) 営業時間モード: 営業時間設定
休業日数: 01日間(翌日のみ休業)を設定した場合
① 営業終了時に設定すると、その時からわき上げを停止します。
② 営業時間内に設定すると、営業時間内はわき上げを行い、営業終了時間からわき上げを停止します。
※翌日の営業日には、お湯が使えます。



- 例2) 営業時間モード: 24時間営業
休業日数: 01日間を設定した場合、設定日の深夜0:00までわき上げを停止します。



● 設定範囲

1~15日/長期停止

お願い

- 予定日より早く営業する場合は、休業日数を解除し、満タンわき増しをご使用ください。

お知らせ

- 時計合わせで現在時刻が設定されていない場合は、設定できません。
- 休業日数の設定中に、満タンわき増しの設定、または現在時刻の変更を行うと自動的に解除されます。
- 「長期停止」を設定すると、解除するまでわき上げません。
- 「休業日数」設定していても、タンク内にお湯が残っている場合は即湯運転を実施します。即湯運転を停止する場合は、即湯運転の設定を「切」にしてください。

小型業務用エコキュート ユーザー向け簡易ガイド(GE-553SUJ/SU)

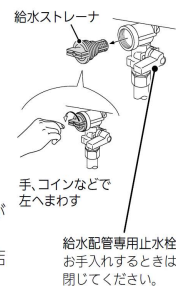
安全・快適にお使いいただくため、定期的の実施してください。
点検時に異常がある場合は、次の処置をして据付工事店（販売店）へご連絡ください。
●給水配管専用止水栓を閉じる
●貯湯ユニットの電源レバーを「切」にする
※機器が凍結するおそれがある場合は、給湯機の水を抜いてください。
※詳細は取扱説明書をご確認ください。

4-1. 給水ストレーナのお手入れ

頻度：日常

お湯が出ない場合は、給水ストレーナのゴミを取り除いてください。

- 1 脚部カバーが付いている場合は、脚部カバーを外す
- 2 給水配管専用止水栓を閉じる
- 3 逃し弁操作窓を開けて、逃し弁のレバーを手前に起こす
- 4 給水ストレーナを外し、歯ブラシなどでゴミを取り除く
配管内の残水が飛び散る場合がありますので、ご注意ください。
水が出続ける場合は、据付工事店（販売店）へご連絡ください。
- 5 掃除が終わったら、給水ストレーナを取り付け、逃し弁のレバーを戻し、給水配管専用止水栓を開く
- 6 脚部カバーを取り付ける



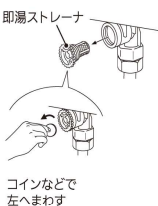
給水配管専用止水栓
お手入れするときは
閉じてください。

4-2. 即湯ストレーナのお手入れ

頻度：日常
(GE-553SUJのみ)

お湯が出ない場合は、即湯ストレーナのゴミを取り除いてください。
※即湯循環機能を使用している場合、熱いお湯が出ることがあります。

- 1 脚部カバーが付いている場合は、脚部カバーを外す
- 2 即湯戻り配管専用止水栓を閉じる
- 3 逃し弁操作窓を開けて、逃し弁のレバーを手前に起こす
- 4 即湯ストレーナを外し、歯ブラシなどでゴミを取り除く
配管内の残湯が飛び散る場合がありますので、ご注意ください。
水（お湯）が出続ける場合は、据付工事店（販売店）へご連絡ください。
- 5 掃除が終わったら、即湯ストレーナを取り付け、逃し弁のレバーを戻し、即湯戻り配管専用止水栓を開く
- 6 脚部カバーを取り付ける



コインなどで
左へまわす

4-3. リモコンのお手入れ

頻度：日常

表面が汚れたときは、乾いた布や硬くしぼった布で拭いてください。
※ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使用しないでください。
変形や変色の原因になります。

5-1. 逃し弁の点検

頻度：年に2～3回程度

動作点検と水漏れ点検をします。わき上げをしていないときに点検してください。

- 1 **動作点検**
逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを手前に起こし、排水口から水（お湯）が出ることを確認する
- 2 逃し弁のレバーを戻し、逃し弁操作窓を閉める
- 3 **水漏れ点検**
排水口から流水音や水（お湯）が出ていないことを確認する
水が出ている場合は逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを数回動かしてください。
水が止まらない場合は、据付工事店（販売店）へご連絡ください。排水口が見えないときは、脚部カバーを気をつけて外してください。



警告 逃し弁点検時は配管に手を触れない（やけどの原因）

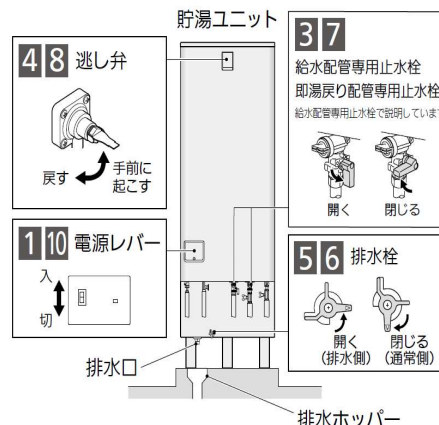
5-2. 貯湯タンクの点検

頻度：年に2～3回程度

タンクの下部にたまった汚れを排水します。
※わき上げをしていないときに点検してください。

- 1 操作窓を開け、電源レバーを「切」にする
- 2 脚部カバーが付いている場合は、脚部カバーを外す
- 3 給水配管専用止水栓、即湯戻り配管専用止水栓*を閉じる
- 4 逃し弁操作窓を開けて、逃し弁のレバーを手前に起こす
- 5 排水栓を約1～2分間開く
タンクの下部にたまった汚れを排水します。
排水ホッパーから排水があふれないように排水栓を調整してください。
- 6 約1～2分間たったら、排水栓を閉じる
- 7 給水配管専用止水栓、即湯戻り配管専用止水栓*を開き、排水口から勢いよく水（湯）が出ることを確認する
- 8 逃し弁のレバーを戻す
- 9 脚部カバーを取り付ける
- 10 電源レバーを「入」にする

※即湯・混合給湯機種のみ



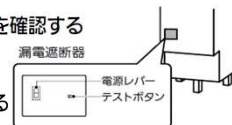
警告 排水時は、熱湯が出ることがあるのでお湯に触らない（やけどの原因）

5-3. 漏電遮断器の点検

頻度：年に2～3回程度

電源供給中に点検してください。

- 1 操作窓を開け、電源レバーを手動で「入」→「切」→「入」し、スムーズに動作することを確認する
- 2 テストボタンを押し、電源レバーが「切」になることを確認する
電源レバーが「入」→「切」になれば正常です。
「切」にならない場合は据付工事店（販売店）にご確認ください。
- 3 必ず電源レバーを上げて「入」に戻し、操作窓を閉める



警告 漏電遮断器の動作を確認する（故障のまま使用すると、感電や火災の原因）
漏電遮断器は濡れた手で操作しない（感電の原因）

お願い ●給湯機以外の漏電遮断器のお手入れと点検については、漏電遮断器の説明書を参照ください。

5-4. 配管の水漏れ、保温材破損の点検

頻度：年に2～3回程度

各配管及び配管接続部の水漏れ、保温材破損がないか、必ず点検してください。
※わき上げをしていないときにタンク下部の水抜き栓や配管接続部等から水漏れがないことを確認してください。

注意 凍結防止対策の確認をする（配管が破損して水漏れや、やけどの原因）

5-5. 定期点検（有料）

頻度：3年に1回程度

給湯機を少しでも長くお使いいただくため、3年に1度、定期点検（有料）を行なってください。

※0℃以下の周囲温度のときには、定期点検しないでください。
（電源を切ると凍結により機器が破損する原因となります。）
定期点検は、据付工事店（販売店）または「修理窓口」へご相談ください。
点検の結果、部品交換が必要なものは、有料で交換します。
定期点検を実施しないと家屋・家財などの損害に結びつく場合があります。

◆定期点検の主な内容

据付状態	設置面（万一、水漏れが生じた場合、床下や下層階への水の浸入を防止するために、排水・防水できるようにしているか）、配管状態、配管その他の保温処置、電気配線などの確認
機能部品	電気部品（配線、導通、動作の確認）、弁類（減圧弁、逃し弁）、給水用具（逆流防止装置）*などの点検及び消耗部品の交換 ※給水用具（逆流防止装置）に関しては、(公社)日本水道協会発行の給水用具の維持管理指針に基づいて点検をします。
清掃	タンク内の清掃（沈着物等の除去など）、給湯機のストレーナの掃除、機能部品の掃除

6-1. ヒートポンプユニットの消耗部品及び交換時期

本表はヒートポンプユニットの主要部品を示します。交換時期は目安です。
保証期間を示すものではありません。使用環境によって消耗、劣化する時期は異なります。
※下記部品の交換時は、当社補修用性能部品をご指定ください。

部品名	三相電源	
	即湯・混合給湯機種 システム形名 GE-553SUJ*1	混合給湯専用機種 システム形名 GE-553SU*2
圧縮機	6年	10年
ファンモータ	4年	7年
制御基板	6年	6年

※1. 給湯使用湯量 一日あたり900L（65℃換算、即湯配管長40mの場合）
※2. 給湯使用湯量 一日あたり1400L（65℃換算）

6-2. ヒートポンプ配管の交換

使用環境で異なりますが、ヒートポンプ配管は8年以内に交換してください。

6-3. 貯湯ユニットの消耗部品

下記の部品は、使用環境によって3年程度で消耗・劣化する場合があります。

- ・減圧弁
- ・逃し弁
- ・混合弁
- ・切替弁
- ・開閉弁
- ・逆止弁
- ・ポンプ
- ・流量センサ
- ・バックン類

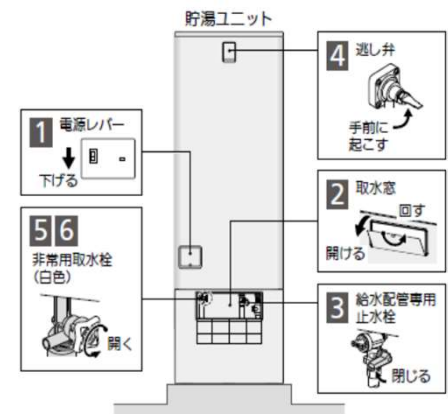
小型業務用エコキュート ユーザー向け簡易ガイド (GE-553SUJ/SU)

7-1. 非常時の取水方法

タンクの水（お湯）を生活用水として利用できます。



- 給湯（取水）・排水時は、熱湯がでることがあるのでお湯に触らない（やけどの原因）
- ヒートポンプ配管や高温給湯配管に手を触れない（やけどの原因）



1 電源レバーを下げ、「切」にする

- 電気の供給を停止します。

2 脚部カバーの取水窓を開ける

- ※脚部カバーが無い場合は、へ進む

3 給水配管専用止水栓を閉じる

- 貯湯ユニットへの給水を止めます。

4 逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを手前に起こす

- タンクへ空気を取り入れます。

5 非常用取水栓（白色）を開く（2回転～2回転半で全開）

- タンクの水（お湯）を取り出します。
バケツなどで受けます。

〈取水が終わったら〉

6 非常用取水栓（白色）を閉じ、手順2で開けた取水窓を閉める

お願い

- 再び使用するときは、取扱説明書「使いはじめ（準備）」の手順にしたがってください。必ず機器を満水にしてからご使用ください。
- 初めての操作時や長期間操作していない場合はハンドルが回りにくい場合があります。操作時は力が等に注意してください。

お知らせ

- 非常用取水栓（白色）は、ヒートポンプ配管用水抜き栓と兼用です。

8-1. お問い合わせ窓口

製品の不具合やご不明点などあれば、以下からお問い合わせください。

三菱電機お客さま相談センター

<https://www.mitsubishielectric.co.jp/lsg/kaden/support/support/>

